

唐張繼「楓橋夜泊」詩と日本文学・韓国文化

丹羽博之

要旨

以前に「大和田建樹作詞「旅泊」と唐張繼「楓橋夜泊」——明治唱歌による和洋中文化の融合——」（大手前大学人文科学部論集 第六号 二〇〇六年三月）、「大和田建樹作詞「旅泊」と唐張繼「楓橋夜泊」と「灯台守」と英国賛美歌」（第十回東アジア比較文化国際会議（二〇〇八年一〇月 大韓民国 高麗大学）の論において、大和田建樹は唱歌「旅泊」において、「楓橋夜泊」詩を巧みに利用して、明治唱歌として、初めての芸術的な唱歌を作詞したことを述べた。

また、この曲は櫻井雅人氏によって、亜米利加のスクールソング『The Golden Rule』の利用が証明された。その後、「旅泊」の曲は、昭和二十二年文部省の音楽の教科書に「灯台守」として載り、更に同じ題で、韓国に伝わり、日本では殆ど歌われなくなった「灯台守」が今も韓国では歌い継がれていることを述べた。

今回の発表では、

①「旅泊」の題は『唐詩選国字解』の当該詩の解説の冒頭「旅泊ノコトナレバ」を参照して、大和田建樹は「旅泊」の題名を思いついたのではないかと推察した。

②「楓橋夜泊」詩の日本での受容の例を探し、絶海中津（一三三六〜一四〇五）の詩を初め、五山文学のころから受容されたらしい。その他、日本国使と称して朝鮮半島に渡った玄蘇が一五八〇年に、慶州の奉徳寺の鐘をみて「楓橋夜泊愁眠客」の詩句を詠じた例がある。

③ 韓国においては、高麗末の詩人李穡（一三二八～一三九六）の詩集「牧隱詩藁」（卷十一）の「秋日。奉懷懶殘子。因述所懷。吟成五首（其一） 奉呈籌室」詩に、

「回首天台欲斷腸、石橋人影掛夕陽、如今却似寒山寺、半夜鐘聲到病牀」とあるのが、現在残る最古の例。

④ 「月落烏啼」の名句は已に中唐劉禹錫の「踏歌詞四首（其三）」に、

「新詞宛轉遞相伝、振袖傾鬟風露前、月落烏啼雲雨散、遊童陌上拾花鈿」の例が見られ、韓国の漢詩に二十例見られる。等の事を指摘した。

キーワード…大和田建樹・旅泊・張繼・楓橋夜泊・灯台守

一、「旅泊」命名の由来

既発表の論で、大和田建樹作詩の明治唱歌「旅泊」(『明治唱歌(三)』明治二十二年六月)の歌詞は、

一

磯の火ほそりて 更くる夜半に 岩打つ波音 ひとりたかし
かかれる友舟 ひとと寝たり たれにか かたらん 旅の心

二

月影かくれて 烏啼きぬ 年なす長夜も あげにちかし
おきよや舟人 おちの山に 横雲なびきて 今日も のどか

唐張繼の「楓橋夜泊」詩の

月落烏啼霜滿天 江風漁火對愁眠 姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船

を利用したものであることを述べた。

本稿では、次に、明治唱歌「旅泊」の題名の由来について考察したい。「楓橋夜泊」詩は、江戸時代に日本で流行した『唐詩三百首』『三休詩』『唐詩選』の全てに収録されており、広く日本人に親しまれてきた。特に日本で好まれた『唐詩選』は、江戸時代の中ごろの服部南郭が校訂した本が江戸で出版され、大流行した。南郭の講義の筆録と称する本が死後しばらくして出版され、『唐詩選』の流行に拍車をかけた。『唐詩選国字解』というその本の「楓橋夜泊」詩の解釈の冒頭は

旅泊ノコトナレバ、通宵寢ズ、暁カト驚タ体ヲ云○山ニ入りカカル月カゲガ森ヘサシコンダユヘ

で始まる。大和田建樹は、この冒頭の「旅泊ノコトナレバ」から唱歌「旅泊」の題名を思いついたことはほぼ間違いないであろう。

また、森川許六『和訓三体詩』の「楓橋夜泊」を、村上哲見『漢詩の名句・名吟』(講談社現代新書)は、次のように解説する。

軛こまの夜泊やばくのかじ枕まくら、室むろのうき寝の浪の床、しおなれごろも、ひとよ妻、重ねて寝んと漕ぎよせて、のぼりくだりの舟がかり、ちかづきぶりにかいま見の、そら約束に待ちわぶる、門かどのじゃらつきはしごのとどろき、胸つぶるるおりからに、田舎わたりのわけ知らず、まかれて人にもらわるる、ただひとり寝のそこ寒く、月落ちかかる淡路島、生田の森のむら鳥むらどり、秋の霜夜のあけかねて、あまのいさり火行きちがい、寝ぎめのたばこくゆらせて、すこし晴れ行く憂き眠り、松のあらしの一の谷、須磨寺につく鐘の声、波の枕に伝い来て、舟は港をおし出しける。

つまり場面を瀬戸内海の舟旅にみたて、軛の浦から室津（兵庫県御津町）にやってきたところ、船着き場といえは色里がつきもの、あがつて遊ぼうとしたら、遊女にふられてひとり寝をするハメとなった、そのわびしさという筋書き、「鳥」は「生田の森むら鳥」「鐘」は「須磨寺につく鐘の声」と化けており、何ともいえぬおかしみがあります。

大和田建樹は四国は伊予宇和島の出身であり、何度か瀬戸内海を行き来している。『和訓三体詩』の見立てに加えて、瀬戸内海航行の経験も「旅泊」の背景にあったであろう。

二、「楓橋夜泊」詩の日本での受容

「楓橋夜泊」詩は已に室町時代五山文学にその受容が認められる。横山景三おっせんけいさんの作に次の例がある。

雪寺鐘声 雪寺の鐘声

雪洒寺楼将暮鴉 雪は寺楼に洒そそぎ 将に暮れんとするの鴉

僧鐘半湿破袈裟 僧も鐘も 半ば湿り 破れたる袈裟

斯声孰与昔遊夕 斯の声 昔遊の夕べと孰いづれ与ぞ

呉水楓橋長楽花 呉水楓橋 長楽の花

〔小補集〕玉村竹二編『五山文学新集』東京大学出版会

「寺・鐘・鴉・呉水楓橋」と「楓橋夜泊」詩を連想させる詩語が鏤められていおり、「昔遊の夕べ」は張継の楓橋での夜泊の旅を指しているのではないか。五山の名僧絶海中津の作にも「楓橋夜泊」詩の利用が認められる。

文煥章婦姑蘇

面带烟霞色 面は帯ぶ 烟霞の色

囊齋輔教編 囊には齋くわいふ 輔教編

紙衣游帝里 紙衣 帝里に遊び

金錫度呉天 金錫 呉天をわたる

楓落秋江水 楓は落つ 秋江の水

鐘清夜泊船 鐘は清し 夜泊の船

香花浮仏寺 香花は 仏寺に浮かび

旧業境依然 旧業 境は依然たらん

鐘声近

清夜沈々群籟収 清夜沈々として 群籟収まり

疎鐘声近月中楼 疎鐘声は近し 月中の楼

十年夢断楓橋泊 十年夢は断つ 楓橋の泊

吟興正逢長楽秋 吟興正に逢ふ 長楽の秋

岩波新古典大系『五山文学集』では、この二首の脚注で、「楓橋夜泊」詩の利用を指摘する。

この他、玄蘇（一五三七年～一五八〇）『仙菓稿』を残すも「楓橋夜泊」詩を利用して作詩している。李進熙『倭館・倭城を歩く』（七二頁 六興出版 一九八四年）は次の逸話を紹介している。

報徳寺はいま、慶州博物館の鐘楼にかかっている、高さ三・三メートル、口径二・三メートル。巨鐘に似合わない柔らかい音色で、余韻は二分以上もつづく。銘文によって、聖徳王の冥福を祈るために景徳王が鑄造に着手したが成功せず、その子惠恭王の代に苦心して完成(七七〇年)したことがわかる。伝説だが、何回鑄造してもよい音色が出ないので、子供をいけにえにすることに。貧乏のためにいけにえにされるその子供は、煮えたぎる銅のなかに投げこまれるときに、「エミレー(お母さん!)」と泣きさけんだという。それが事実かどうかは別として、いまでもエミレ鐘といわれている。

ところが、新羅王朝は亡び、報徳寺も廃寺となる。一四六〇年、この鐘は靈妙寺に移されるが、これも廃寺になったので、慶州城南大門近くの鐘楼に移される。一五三〇年に完成した『新增東國輿地勝覽』に「府尹芮椿年、移置南門外、構屋以懸、凡徵軍擊之」とある。

鐘楼にのぼった玄蘇はまず、その大きさ驚いたにちがいない。彼は形の美しさや浮き彫りされた飛天像の麗しさにふれ、鑄造の銘文もよんだ。そうして五里離れた「阿火駅」(月城郡阿火里)で昼食をとり、戌刻(午後七時、八時)に永川ヨシナガの宿舎に入るのだが、早朝の感激が忘れられなかったのか、詩を贈って宣慰使に厚情を感謝している。

要説此鐘誇旧扮 説かんとす 此の鐘の旧扮を誇るを

摩挲醉眼見銘文 醉眼を摩挲し 銘文を見む

楓橋夜泊愁眠客 楓橋夜泊 愁眠の客

輸却今朝立馬間 輸却す 今朝立馬の間

とあり、玄蘇は異国の地慶州で見た奉徳寺の鐘に、旅愁を詠んだ「楓橋夜泊」詩を重ねて詠んでいる。このように、夙に室町時代から、五山文学を中心に「楓橋夜泊」詩は人口に膾炙してきた。五山の詩僧にとっては、「寒山寺」「夜半鐘声」がとりわけ親しみをもって受け入れられたのである。

五山文学にやや遅れて、和文の世界にも「楓橋夜泊」詩は利用され始める。

「観聞日記紙背 和漢連句」 応永二十五年(一四一八)

こほりふく月の夜風に鐘沬て 慶

いづくとまりぞ出る浦舟 重有朝臣

『観聞日記紙背 和漢聯句譯注』（京都大学国文学研究室 中国文学研究室編 臨川書店 二〇一一年）には、さえざえとした月夜の鐘から舟を発想するにあたっては、『三体詩』にも収められる張継「楓橋夜泊」詩が意識されているのかもしれない。

との注がある（日本学術振興会外国人特別研究員 楊昆鵬氏御教示）。この二句は、「楓橋夜泊」詩の影響を受けていると考えるべきであろう。このように、和文の世界にも「楓橋夜泊」詩の表現は取り入れられ始めた。

謡曲「三井寺」には、

この鐘のつくづくと思ひを尽くす暁を、いつの時にか比べまし。

月落ち鳥啼いて、

霜天に満ちてすさまじく、江村の漁火もほのかに、半夜の鐘の響きは、客の船にや通ふらん

とある。同じく「道成寺」には、

月落鳥啼いて霜雪天に、満汐程なく、日高の寺の江村の漁火愁へに對して、人々ねぶれば、よき隙ぞと、立ち舞ふやうにてねらひ寄りて、撞かんとせしが、思へばこの鐘、うらめしやとて、竜頭に手をかけ飛ぶとぞ見えし、引き被きてぞ、失せにける。

とある。日本人にとっても、寺と鐘といえは、鐘と言えは、寒山寺の鐘を詠んだ「楓橋夜泊」詩が先ず思い起こされ、「三井寺」「道成寺」に利用された。謡曲の世界では、「鳥」が「鳥」、「江風」が「江村」として受け入れられた。特に和歌の世界では、鳥は詠まれることは少なく、「鳥啼」よりは「鳥啼」の方が日本人的感覚に沿うものである。また「江風」よりは「江村」の方が日本人には親しみが持てるのではないか。

このほか、『太平記』にも「楓橋の夜の泊まりに御哀れを副へられ（先帝吉野へ潜行の事）等と見え、用例を博搜すればもつと多くの受容例があると思われる。

「楓橋夜泊」詩は江戸時代に入ってから日本漢詩に詠まれた。清兪樾（一八二二～一九〇六）の『東瀛詩選』に納められた、西田尚素（字元、号津城、大坂人）の例を挙げる。

憶旧遊寄有政

才人詞曲美人簫 才人の詞曲 美人の簫

往事悠悠魂欲消 往事悠悠 魂消えんと欲す

唯有鐘声呼旧夢 唯だ鐘声有り 旧夢を呼ぶ

寒山寺外古楓橋 寒山寺外 古楓橋

寒山寺在北新地北、寺外有橋名楓橋。寒山寺は北新地の北に在り、寺外橋有り楓橋と名づく。

兪樾が北新地の寒山寺をわざわざ『東瀛詩選』に入れたのは、蘇州寒山寺に今も存する「楓橋夜泊」詩碑の揮毫者であることも関係し
よう。

このほか、幕末の木下業広（一八〇五～一八六七）にも「楓橋夜泊」の利用が認められる。堀誠氏の論より引用する。

壇浦夜泊

篷窓月落不成眠 篷窓 月落ちて 眠りを成さず

壇浦春風五夜船 壇の浦 春風 五夜の船

漁笛一声吹恨去 漁笛 一声 恨みを吹きて去る

養和陵下水如煙 養和の陵下 水煙の如し

堀誠氏「日中幼帝入水考―亡家亡国の挽歌として―」早稲田大学教育学部 学術研究（国語・国文編）第四六号 一九九八年二月
更に狂詩の世界においても「楓橋夜泊」詩は利用された。大田南畝に次の例がある（森岡ゆかり『文豪だって漢詩をよんだ』（新典出版

二二〇頁）。

永久夜泊

鼻落声鳴篷掩身 鼻落ち声鳴って 篷身を掩う

饅頭下戸拔錢縉 饅頭 下戸 錢縉を抜く

味噌田楽寒冷酒 味噌田楽の寒冷酒 かんざまし

夜半小船醉客人 夜半の小船 客人を酔わしむ

この他、戦前一世を風靡した日本の流行歌「蘇州夜曲」にも、「鐘も鳴ります寒山寺」とあるのは、昭和の教養ある日本人にも、蘇州といえば、寒山寺。寒山寺といえば「楓橋夜泊」詩が頭に浮かんだのであろう。

三、中国・韓国の受容例

「楓橋夜泊」詩が中国の後代の詩に詠み継がれたことは、周知のことであるが、韓国においては、高麗末の詩人李穡（一三二八～一三九六）の詩集「牧隱詩藁」（卷十一）の「秋日。奉懷懶残子。因述所懷。吟成 五首（其一） 奉呈籌室」詩に、

回首天台欲断腸、石橋人影掛夕陽、如今却似寒山寺、半夜鐘声到病牀

とあるのが、現在残る最古の例であるが、その後も「楓橋夜泊」を模した漢詩は脈々と詠み継がれていった。李氏朝鮮時代の崔脩（生没年不詳）の「神勒寺（在驪州）」詩に

驪寺鐘声半夜鳴 広陵帰客夢初驚 若教張繼曾過此 未必寒山独擅名

（朴允重『名勝詩選』明文堂 一九九四年）

とあるのは、その一例。

次に中国での「月落烏啼」の名句の伝播を見る。意外なことに早くも中唐劉禹錫の「踏歌詞四首（其三）」に、

新詞宛轉遞相伝、振袖傾鬢風露前、月落烏啼雲雨散、遊童陌上拾花鈿

の例が見られる。張繼の名句は已に唐代の詩人にも伝播していたようだ。詩の内容は全く異なるが、偶然の一致とは考えにくく、劉禹錫が

利用したと考えるべきであろう。この他、「晦庵先生朱文公集」の「次韻擇之舟中有作二首(其二)」詩にも

一席三人抵項眠 心知篷外水如天 起来却恠天如水 月落烏啼浦樹邊

とある。「月落烏啼」の名句は隣国韓国でも詠まれた。「韓国古典綜合DB」で検索すると、李氏朝鮮時代の「估畢齋集」(巻四)の「戒勤宿舟中、明曉、以詩告別、次韻」に

青龍時下停蘭棹 無限郷心更別君 月落烏啼禪話罷 芒鞋還却万重山

とある等、二〇例を数える。日本漢詩において「月落烏啼」の例は今のところ見いだせていない。

晩秋江辺で霜夜の旅愁をしつとりと詠った張繼の名詩「楓橋夜泊」は時空を越え、東アジアの漢字文化圏に影響を与え続けた。

追記

かつて大坂北新地にも寒山寺は存在し、それに因んで有名な浪速の八百八橋の一つに楓橋も架かっていた。さらに現在でも、東京都青梅市沢井に寒山寺が存する。明治十八年、時の書家田口米舫氏が蘇州の寒山寺を訪れたことが縁となり、建立されたという(堀誠氏御教示)。本稿は、第一一五回和漢比較文学学会例会(西部 二〇一二年四月二八日 於京都大学)において同題で口頭発表したものをまとめたものである。席上多くの方から有益な御教示を得た。記して御礼申し上げます。

謝辞

韓国の用例調査にあたっては、大阪大学大学院生の康盛國君の協力を得た。また森岡ゆかり氏からも多くの資料の提供や助言を得た。記して御礼申し上げます。

付録

第十回東アジア比較文化国際会議における研究発表論文集は、韓国での発表ということもあって、日本では読むことが困難であること

が予想されるので、ここに再録する。

大和田建樹「旅泊」と唐張繼「楓橋夜泊」と「灯台守」と英国賛美歌

二〇〇八年十月二十五日 韓国 高麗大学校 日本 大手前大学 丹羽博之

『明治唱歌(三)』(一八八九・明治二十二)に収められた大和田建樹作詞の明治唱歌「旅泊」は、海辺での仮泊の旅愁を歌った名品であるが、曲自体はイギリスの曲と言われてきた。ところが、その歌詞は、唐の詩人張繼の七言絶句「楓橋夜泊」を利用してしている。

このことについては、次の論文について已に論じた。

(前稿) 大和田建樹「旅泊」と唐張繼「楓橋夜泊」——明治唱歌による和洋中文化の融合——

「大手前大学人文科学部論集」第六号 二〇〇六年三月

一、前稿概要

まず、その歌詞と詩を挙げる。

①旅泊 大和田建樹

一番…②磯の火ほそりて ③更くる夜半に 岩うつ波音 ひとりたかし

かかれる④友舟 ⑤ひとは寝たり たれにかかたらん ⑤旅の心

二番…⑥月影かくれて からす啼きぬ 年なす長夜も あげにちかし

おきよや④舟人 ⑦おちの山に 横雲なびきて 今日も のどか

唐張繼「楓橋①夜泊」

⑥月落烏啼霜满天 江楓②漁火对④愁眠 姑蘇城外⑦寒山寺 ③夜半鐘声到④客船

(月落ち烏啼いて 霜天に満つ 江楓漁火愁眠に対す 姑蘇城外 寒山寺 夜半の鐘声 客船に到る)

両者には

- ① 「旅泊」 ↔ 「夜泊」
- ② 「磯の火」 ↔ 「漁火」
- ③ 「更くる夜半」 ↔ 「夜半」
- ④ 「友舟」「舟人」 ↔ 「客船」
- ⑤ 「ひとほ寝たり」「旅の心」 ↔ 「愁眠」
- ⑥ 「月影かくれて からす啼きぬ」 ↔ 「月落烏啼」
- ⑦ 「おちの山」 ↔ 「寒山寺」

等が類似する。特に⑥はそのまま訓読した感がある。

張継「楓橋夜泊」は『唐詩選』『唐詩三百首』『三体詩』にも収められており、中国では勿論、江戸時代の日本人にも非常に愛好された。詳しくは村上哲見氏『漢詩の名句・名吟』（講談社新書）「楓橋夜泊」の韓国での受容・人気について教えを乞いたい。

一九三〇年代の日本の流行歌「蘇州夜曲」にも「鐘も鳴ります寒山寺」とあった。現代日本でもNHKの「ゆく年くる年」などで除夜の鐘として放映されているなど、日本人になじみの深い漢詩である。

以下に作詞者大和田建樹と「旅泊」を『日本の唱歌(上)』（金田一春彦 安西冬子編 講談社文庫）の解説を挙げる。

大和田建樹（一八五七～一九一〇）国文学者で詩人。愛媛県の宇和島に出生。その藩校で学んだのち、広島外国語学校で英語を勉強した。上京後、大町桂月らの大学派に対して、野にある国文学者として知られた。（中略）彼の大きな業績は何といっても唱歌の作詞で、「哀れの少女」「旅泊」のような、他の人に先立って文学的な作品を公にした功は大きく、また、この本でも見られる通り、明治時代の唱歌の一番多くのもを作詞したのは、彼である。しかも、「鉄道唱歌」「散歩唱歌」その他長大なものが多く、どんな題材でも頼まれ

れば引き受けて作った（中略）早作りの名人で、長い歌詞をスラスラと作り、生涯に詠んだ歌の数は一万数千首に及んだと伝えられる。「旅泊」については

イギリスの曲という。大和田がそれを作詞したものであるか、舟旅に出た旅人の心細い気持ち、夜が明けてほっとする気持ちがよく出ていて、見事な歌詞である。『明治唱歌』で最初に出た芸術的な歌詞ではなからうか。大和田の力量は十分わかる。とある。

二、「旅泊」のルーツと伝播

「旅泊」の原曲はイギリスの曲と言われてきたが、長らく原題も分らないままであった。ところが最近になって、櫻井雅人により、アメリカのスクールソング「The Golden Rule」であることが証明された（「旅泊」その他…外国曲からの唱歌四曲「一橋論叢」134 2005年9月）。曲はアメリカ、歌詞は漢詩をそっくり利用、歌うのは日本人であり、明治時代の和洋中折衷の文化がこの唱歌にも認められる。この「旅泊」は後に、『高等小学唱歌』（一九〇六年・明治三十九）に「助け舟」（佐佐木信綱作詞）、『五年生の音楽』（一九四七・昭和二十）に「灯台守」（勝承夫）と五十年以上歌い継がれてきた。

『高等小学唱歌』（一九〇六年・明治三十九）の「助け舟」を挙げる。

一 激しき雨風天地暗く

山なす荒波たけり狂う

見よ見よかしこにあわれ小舟おふね

生死しうじの境と救い求む

二 救いを求むる声はすれど

この風この波誰も行かず

見よ見よ漕ぎ出る救い小舟

健気な男子おのこら守れ神よ

荒海に救助に練り出す健気な男達がテーマで、「旅泊」の荒海のイメージを受け継いでいると言えようか。この曲の場合は「旅泊」と違い、教科書に載っていることから、命を惜しまずに救助に向うという道德教育的な要素を感じさせる。

次に「灯台守」の歌詞を挙げる。

灯台守 勝承夫作詞 イギリス曲

こおれる月かけ 空にさえて

ま冬のあら波 よする小島

思えよ とうだいまもる人の

とうとき やさしい愛の心

はげしき雨風 北の海に

山なすあら波 たけりくる

その夜も とうだいまもる人の

とうとき誠よ 海をてらす

『叙情歌愛唱歌大全集』（ビクターファミリークラブ）の「灯台守」の解説を挙げる。

明治22年6月発刊の『明治唱歌（三）』に既にこのメロディが載っているが、この時は大和田建樹が書いた「旅泊」という題名がついていた。勝承夫作詞のこの歌は、戦後の昭和22年、文部省発刊の最後の教科書『五年生の音楽』に載ったもの。イギリスの曲といっても原題も作曲者もよく判らないが、感傷の豊かなメロディが大きな魅力になり、少年少女の心に訴えるものがあつたのか、歌詞は変わったが明治、大正、昭和と歌い継がれてきた。

この「灯台守」にも荒海が歌われている。これまた、岬の先端で人知れず、灯台を守る人の辛苦、縁の下の力持ちをうたっており、教育的内容になっている。更に、この曲は、韓国でも「灯台守」として、教科書にも載り、殆どの韓国人は知っている。また、題名も全く同じ、歌詞も殆ど同じという。日本の「灯台守」が韓国に入ったのであろう。

戦後になっても猶日本の教科書の歌がほぼそのまま利用されているのは何故であろうか。また、韓国では何年から教科書に載ったのであろうか。教えを乞いたい。

今年、大手前大学に留学した韓国世宗大学の学生にアンケート調査したが、殆どの学生が小中学生の時音楽の時間等で聞いたという。しかし、この曲がもとは、日本で歌われていた「灯台守」にあることを知る学生は当然ながら皆無である。ましてや、その前身が明治唱歌の「旅泊」にあることや更にそのルーツがアメリカの曲であることは知る人は絶無であろう。

日本の大学生約百人に聞いたが、殆どが「灯台守」を知らないという。しかし、一九四〇年～一九五〇年代に小学生であった年配の方の多くは知っているという。こうしたところにも日本文化の世代間の断絶が垣間見られる。

明治期に入って、スコットランド民謡等西洋の曲が日本に入り、それを日本人が歌いやすいようにアレンジした例は多い。歌詞は日中の古典を利用して新しく創作された。曲は西洋、歌詞は日中の古典を利用、歌うのは日本人、という例が多い。

スコットランド民謡「Auld Lang Syne」は、日本では「螢の光」として卒業式等でよく歌われるが、この歌詞は「蒙求」等に見える「孫康映雪、車胤聚螢」の故事利用したものである。一方、韓国では「国歌」という題名になって、士気を鼓舞する歌として作詞された。中国では「惜春婦」の曲名で作詞されている。酒を飲んで再会を誓う「Auld Lang Syne」が日本では勸学的な「螢の光」になり、韓国では国を愛する「国歌」となり、中国では、逝く春を惜しむ内容となった。スコットランド民謡が東アジアにもたらされたが、日中韓国ではそれぞれ、全く違った歌詞が当て嵌められた。

本年六月に以下の発表を行った。

「鉄道唱歌」と漢詩とスコットランド民謡「ロッホローモンド」

(東アジア比較文化国際会議日本支部二〇〇八年六月十四日於明星大学)

スコットランド民謡「ロッホローモンド」に曲想を得、更に漢詩「長笛一声」を利用して「鉄道唱歌」の「汽笛一声」が作詞された。その曲が海を渡り、韓国では「学徒歌」、中国では「揚子江」として歌われた。一方、「鉄道唱歌」から「聖教目録歌」が作詞されて、聖書の目録づくしの替え歌として日本の教会で歌われ、韓国語にも翻訳されて、韓国の教会でも歌われた。今回の「旅泊」の背景と良く似ている。

結び

百余年前太平洋をはるばると渡って日本に来た“The Golden Rule”は、大和田建樹によって、漢詩を利用しながらも格調高く芸術的な唱歌となり、更に「助け舟」「灯台守」にも荒海のイメージを伴って歌い継がれた。その曲がまたも海峡を越えて独立した大韓民国に受け継がれた。明治時代の西洋、日本、中国の文化の融合によって、「旅泊」ができ、その末裔が漢字文化圏の韓国にも渡り、今もなお韓国では歌い継がれている。元祖の国、米国では歌われなくなり、輸入した日本でも今は余り歌われず、韓国でだけ歌われている。不思議な音楽の伝播である。

「旅泊」のメロディが“The Golden rule”を利用したことは、櫻井雅人氏の指摘で間違いの無いことだと思いが、一部似た箇所のある賛美歌に「聖歌472人生の海の嵐に」がある。この賛美歌も日本、韓国に伝わり、今も教会で歌われている。この賛美歌については、「荒海と救済」の歌詞を中心に、英語の原文を日韓で如何に翻訳した等の問題を含め稿を改めて考えたい。

①「旅泊」と韓国の「灯台守」が類似し、韓国では今もよく歌われていることについては、大手前女子大学(当時)の留学生金銀天さんから教示を得た。

②「灯台守」と賛美歌(聖歌472)が似ていることについては、大手前大学院博士前期課程在学時の中国人留学生張萍さんから教示を得た。また、その賛美歌(聖歌472)の日本、韓国の楽譜、歌詞の提供を受けた。また、その貴重なテープを梅花女子大学の中川正美教授、米川明彦教授から提供を受けた。また、「旅泊」の原曲が米国にあることについては、櫻井雅人氏から種々の資料の提供を受けた。厚く御礼申し上げます。

二〇一二年の考察：高麗大学での発表後気づいたことを記す。

“The Golden Rule”は、基督の「山上垂訓」に基づく。櫻井雅人氏の論によれば亜米利加の日曜学校唱歌ということであり、賛美歌的な曲であった。“The Golden Rule”を元にした「旅泊」が賛美歌（聖歌472「人生の海の風に」その元は“The Haven of Rest”）に似て聞こえることがあったのも理由のないことである。基督教信仰が盛んな韓国で「동대지기（灯台守）」として今も歌い継がれている原因は曲の類似性にもあるのではないか。

“The Golden Rule”は、基督の「山上垂訓」の逸話によることは、二〇一二年四月の和漢比較文学会例会において、関西大学教授山本登朗氏から御教示を得た。

参考資料

以下に「旅泊」「灯台守」「동대지기」等の楽譜を掲載する。

旅 泊

大和田健樹 作詞
イギリス 曲

い そのひ ほ そーりて ふ くるよーわ に ーい
わ うつ な みーおと ひ と りたーか し ーか
か れる と も ぶね ひ と はねーた り ーた
れ にか か たーらん た び のこーこ ろ ー

灯 台 守 (旅 泊)

勝 承夫 作詞
イギリス 民謡

♩ = 120

mf (A)
5 | 3 3 3 1 | 2 1 6 5 5 | 1 1 1 2 3 | 2 . 2 5 |
こ おれる つ きーか げ そ らに きーえ て ーま
(A)
3 3 3 1 | 2 1 6 5 5 | 1 1 7 1 2 | 1 . 1 1 |
ふ ゆの あ らーな み よ する おーじ ま ーお
(B)
2 2 2 2 | 3 3 3 3 | 4 3 3 2 1 | 2 . 2 5 |
も えよ と う だい ま も る ひーと の ーと
(A)
3 3 3 1 | 2 1 6 5 5 | 1 1 7 1 2 | 1 . 1 ||
う と き や さーし き あ い のこーこ ろ ー

등대지기

唐張繼「楓橋夜泊」詩と日本文学・韓国文化

보통 빠르게 영국 민요

G C D7 G D

1. 얼 어 붙은 달 그 - 림자 물 결 위 에 - 자 고 - 한
 2. 모 질 게 도 비 바 - 람이 저 바 다 를 - 덮 어 - 산

G C D7 Em D7 G

겨 울 의 거 센 - 파 도 모 으 는 작 - 은 섬 - 생
 겨울 이 른 거 센 - 파 도 천 지 를 혼 - 든 다 - 이

D G C G D

각 하 라 저 등 대 를 지 키 는 사 - 람 의 - 거
 밤 에 도 저 등 대 를 지 키 는 사 - 람 의 - 거

G C D7 G D7 G

특 하 고 아 름 - 다운 사 랑 의 마 - 음 을 -
 특 한 손 정 성 - 이 여 바 다 를 비 - 친 다 -

세광 애창 동요 © 2005 세광음악출판사

발행처 세광음악출판사 서울특별시 용산구 서계동 232-32 • 등록번호 제 3 - 108호(1953. 2. 12)
 Tel: 02)714-0046(대) Fax: 02)719-2656
 공급처 (주) 세 광 유 통 Tel: 02)719-2651(대) Fax: 02)719-2191

이 책의 내용을 무단 복제·복사할 수 없습니다(파본은 교환해 드립니다).

Printed in Korea

ISBN 89-03-56504-5 93670

THE GOLDEN RULE.

The gold - en rule, the gold - en rule, Oh, that's the law for me; Were this the law for none would suf - fer,
Were this the rule, in bar - mo - ny Our lives would pass a - way; And none would suf - fer,

all the world, How hap - py we should be. *Cho.* The gold - en rule, the gold - en rule,
none be poor, And none their trust be - tray. The gold - en rule, the gold - en rule,

Oh, that's the law for me; To do to oth - ers as I would That they should do to me.

Title	「旅泊」その他：外国曲からの唱歌四曲
Author(s)	櫻井, 雅人
Citation	一橋論叢, 134(3) : 319 - 333
Issue Date	2005 - 09 - 01
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10086/15553
Right	

聖歌 472

人生の海のあらしに

474

「わたしは、平和をあなたがたに残し…心を騒がせるな」

(ヨハ14:27)

THE HAVEN OF REST
GEORGE D. MOORE (UN)

My soul in and exile
H.L. GILMOUR, (US)
やや穏やく ♩ = 52

1. じんせい の うみの あらしにも まれきし
2. かなしみ と つみの なかより すくわれし
3. すさまじき つみの あらしの もて あそぶ

この みも - ふしぎ なる かみの 手に ま
この み に - いざ な い の こ え も た た ま
まに まに - 死を ま つ は た れ そ た た だ ち

(おろかえし)

りい の ち ひろ い し ぬ -
に ゆ す ぶ る こ と え と に - } い と し ず け き
に に げ こ め み な と に

み な と に 着 き わ れ は い ま や す ろ う (am) - す く

(いぬし イエスの 手 に ある → 身 は い と 静 や す し -

平安と慰め

唐張継「楓橋夜泊」詩と日本文学・韓国文化

東京都新宿区西早稲田 2-3-18-52

TEL. (03) 3202-5398

FAX. (03) 3202-4977

郵便振替番号 東京 3-159228

印刷・製本 우리企画社 TEL. (02) 272-6081

474 이 세상에 근심된 일이 많고

My-soul-in sad' exile
(요 14: 27)

H. L. Gilmore (1837-1920)

조금 빠르게 ♩ = 104

THE HEAVEN OF REST : 11.8.11.8.

G. D. Moore

1. 이 세상에 근심된 일이 많고 참 평안을 몰랐구나
 2. 이 세상에 곤고한 일이 많고 참 쉬는 날 없었구나
 3. 이 세상에 죄악된 일이 많고 참 죽을 일 쌓였구나

내 주에 송 날 오라 부르시나 곧 평안히 쉬리로다
 내 주에 수 날 사랑하시오니 곧 평안히 쉬리로다
 내 주에 수 날 건져 주시오니 곧 평안히 쉬리로다

후렴

주에수의구원의 은혜로다 참 기쁘고 즐겁구나

그 은혜를 영원히 누리겠네 곧 평안히 쉬리로다

평안과 위로

大手前大学論集 第13号 (2012)

韓日讚頌歌

1996年 12月 25日 初版發行 四版(完翻版)

編集者 在日大韓基督教会總會 讚頌歌委員會
 發行所 在日大韓基督教会總會

The Haven of Rest

Henry Lake Gilmour, 1890

George D. Moore

唐張繼「楓橋夜泊」詩と日本文学・韓国文化

1. My soul in sad ex - ile was out on life's sea, So bur - dened with sin and dis -
 2. I yield - ed my - self to His ten - der em - brace, In faith tak - ing hold of the
 3. The song of my soul, since the Lord made me whole, Has been the old sto - ry so
 4. How pre - cious the thought that we all may re - cline, Like John, the be - lov - ed so
 5. O come to the Sav - ior, He pa - tient - ly waits To save by His pow - er di -

- tressed, Till I heard a sweet voice, say - ing, "Make Me your choice"; And I en - tered the "Ha - ven of
 Word, My fet - ters fell off, and I an - chored my soul; The "Ha - ven of Rest" is my
 blest, Of Je - sus, Who'll save who - so - ev - er will have A home in the "Ha - ven of
 blest, On Je - sus' strong arm, where no tem - pest can harm, Se - cure in the "Ha - ven of
 - vine; Come, an - chor your soul in the "Ha - ven of Rest," And say, "My Be - lov - ed is

Refrain
 Rest!" I've an - chored my soul in the "Ha - ven of Rest," I'll sail the wide seas no more; The
 Lord, Rest."
 Rest."
 mine."

tem - pest may sweep o - ver wild, storm - y, deep, In Je - sus I'm safe ev - er - more.

Public Domain
 Courtesy of the Cyber Hymnal™

謝
辞

讚美歌資料収集にあたりましては、大手前大学図書館の岡本玲奈・平原麻唯子さんの協力を得ました。記して御礼申し上げます。